

○提案内容

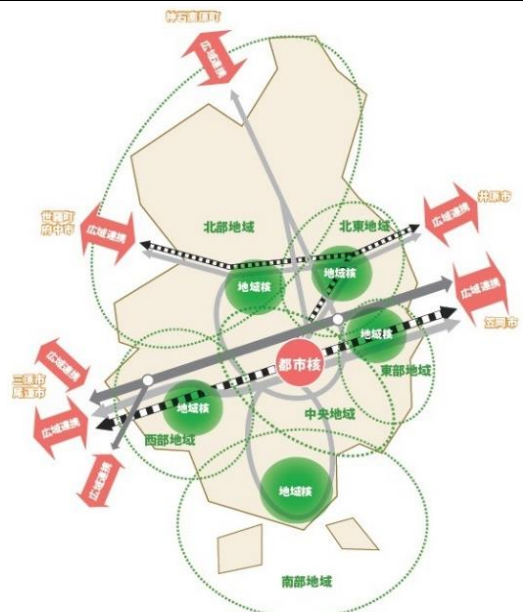
(1)実現したい都市のビジョン

100万本のばらのまち 福山市は、瀬戸内海のほぼ中央、広島県と岡山県の県境に位置する人口約47万人の**中核市**である。日本一新幹線駅に近い「福山城」や『崖の上のポニョ』の舞台「鞆の浦」など、豊富な観光資源を有し、また、鉄鋼やデニムなどのものづくり産業が発展しており、**備後圏域の経済文化の拠点**である。

福山市では、今後の人口減少・超高齢社会や厳しい財政制約の中において、医療・福祉・公共交通など生活に欠かせないサービスを維持することを目的に、集約型のまちづくりを進めるとともに、それらを公共交通網等のネットワークで相互に接続するコンパクト・プラス・ネットワークなまちづくりのため、「**市場原理**」を利用した**都市のコンパクト化の実現を目指す「福山市立地適正化計画基本方針」**を2016年度末に策定したところである。

こうした中、地域社会や経済活動を支える公共交通の効率化や高度化は、今後のまちづくりを考える上での最重要課題の1つである。

福山市では、2018年5月にシャープ株式会社やソフトバンク株式会社、福山大学、福山市など産学官が連携した「先端技術によるまちづくり官民協議会」(資料1)を立ち上げ、AI/IoT技術の活用により、公共交通の全体最適化を行い、人やモノの移動の活性化や地域経済の再生の好循環サイクルを創造し、コンパクト・プラス・ネットワークなまちづくりを支える「**地方版MaaS**」の実現を目指している。



【将来の都市構造のイメージ】

(2)新技術の導入により解決したい都市の課題

※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください(複数ある場合は、課題ごとに対応を記載ください)

解決する課題のイメージ	課題の分類
路線バスは、少子化などの影響もあり利用者が大幅に減少し、慢性的な赤字状態になっており、これを国・県・市が年間約3.5億円を補助することで維持されている。福山市では、「福山・笠岡地域公共交通網形成計画」(2016年度策定)や「福山・笠岡地域公共交通再編実施計画」(2018年度策定予定)を策定し公共交通の再編に取り組んでいるが、利便性の低下と利用者の減少、また深刻な運転手不足もあり、地方の公共交通は疲弊し、市民生活を下支える公共交通の維持確保は、地域社会にとって大きな課題になっている。 また、公共交通を利用できない交通弱者は、福山市において約1.5万人程度になると推計されており、単に自家用車を運転できない市民の日常生活への支障のみならず、あらゆる分野に波及することが想定される。 例えば、日常的な移動に支障をきたすため、高齢者は免許を返納できず、結果として高齢者の事故増加に繋がったり、高齢者や病人の通院が困難になることで重症化し、医療・介護費の負担増に繋がることも考えられる。さらに、若年層においては、移動の制約がそのまま教育機会の格差に繋がり、交通不便地域での更なる少子高齢化の進展が懸念されている。 以上のことから、地方部における公共交通の維持確保は、単なる市民の移動サービスの確保にのみならず、今後の市民生活全体に影響する大きな課題であると考えている。	(ア)交通・モビリティ



(3) 具体的に導入したい技術(既に想定しているものがある場合)

①人流解析

携帯電話の位置情報などのビッグデータから、**人の動き(動的データ)**をリアルタイムに取得し、**公共交通の全体最適化**に活用することで、公共交通の効率化による利便性向上と経費削減を図る。

②オンデマンドモビリティサービスプラットフォーム

オンデマンドでシームレスな乗継ができる乗合タクシーや**グリーンスローモビリティ**の導入を進める中で、地域住民と交通事業者や店舗・銀行など複数サービスとの連携を行う**オンデマンドモビリティサービスプラットフォーム**を構築し、分野横断型の新たなサービスの共創による地域住民の利便性向上と事業者の収益改善を目指す。

③自動運転技術

自動運転技術は、交通事故の減少などの安全性向上とともに、バスやタクシーなどの公共交通事業における運転手不足の解消や経費削減などの効果が期待できる。特に、地域におけるバスやタクシーの運転手の高齢化は顕著で、近い将来の地域公共交通の存続にもつながる喫緊の課題であることから、**自動運転技術の早期導入**が期待されている。



(4) 解決の方向性(イメージでも可)

【 交通分野における新技術の導入 】

◎人流解析

- ・人の動き(動的データ)の取得
- ・公共交通再編や渋滞緩和施策等への活用



◎オンデマンドモビリティサービスプラットフォーム

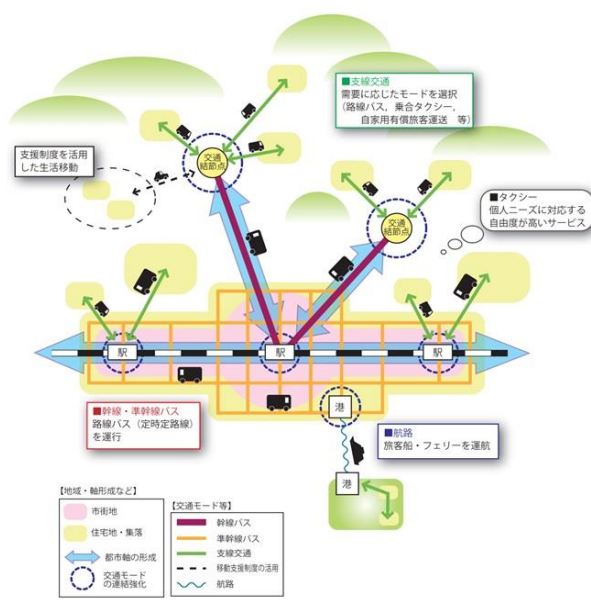
- ・公共交通の全体最適化と新たな移動手段の確保
- ・新たなサービスの共創による移動機会の創出



◎自動運転技術

- ・交通事故の削減等の安全性向上
- ・公共交通における運転手不足の解消と運行経費の削減

【 地方版MaaS を目指す公共交通再編 】



※福山・笠岡地域公共交通網形成計画より

市場原理を利用したコンパクト・プラス・ネットワークなまちづくり

(5) その他

福山市では、新たな社会の姿を作り出すサービスや製品等の実証実験により、社会的課題の解決や地域社会における新たな価値の創造につながる、未来をリードする都市を目指す「**まると実験都市ふくやま**」(資料2)を掲げ、主に次の取り組みを行っている。

①先端技術によるまちづくり官民協議会

産学官(福山市・シャープ・ソフトバンク・福山大学など)の連携のもと、スマートシティ実現に向けたIoTやAIなどの先端技術の実証事業および実証事業を進展することで、行政課題の解決と地域経済の活性化を図る。

②実証実験まるとサポート事業

民間企業等の実証実験の支援をすることにより、まると実験都市のめざす姿を実現するもので、これまでに県内初となる自動運転実証実験、国内初となる5Gドローンを用いたバーチャル飛行体験、グリーンスローモビリティ実証調査など11の実証実験を実施している(資料3)。

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
建設局 都市部 都市交通課	栗原陽介 (企画担当次長)	(084)928-1161	toshikou@city.fukuyama.hiroshima.jp

まると実験都市ふくやま

- ・新たな社会の姿を創り出す都市イメージの構築
- ・民間企業に選ばれる都市への発展
- ・行政サービスと先端技術の融合による市民満足度の向上
- ・市内企業や大学における研究開発の促進
- ・新たな産業の創出による産業構造の変革

実証実験まるとサポート

募集 支援

○IoTやAIなどを活用して地域課題の解決や市民生活の向上につなげる民間企業等の実証実験を募集

※募集にあたっては、HPの他、外部人材や民間企業のネットワークを有効活用

○支援内容

- ・実証実験のPR(HP, FB, 広報紙など)
- ・実験場所の提供(公共施設, 地域との調整)
- ・官公庁手続きの支援(警察, 国や県)
- ・規制緩和の検討(特区の活用検討)



○対象分野

- ・観光, 子育て, 健康づくりなどまちづくりに関する分野

○支援決定

- ・地域課題解決への発展性や市内人材の活用などから総合的に判断

※事業の先駆性や発展性等の判断については、民間企業で活躍する外部人材の知見を活用



次世代通信システム「5G」
設置環境の実証実験



マイナンバーカードのICチップを活用した
ばらのまち福山ポイント

民間ポイントを、地元商店街の商品券に交換できる。

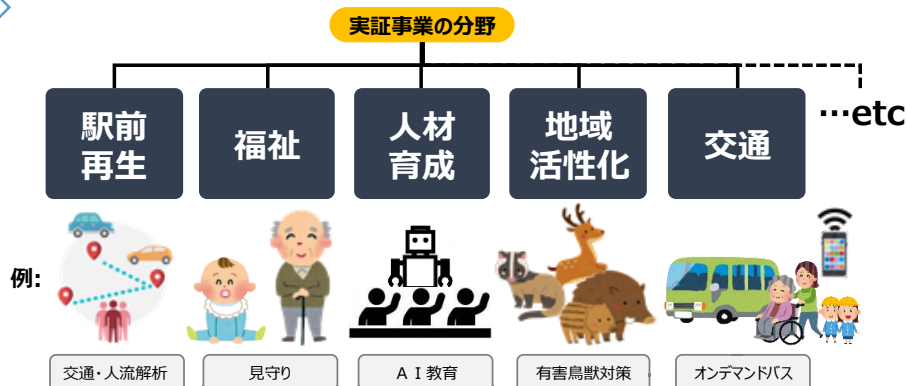


5Gドローンによる
バーチャル飛行体験

先端技術を活用したまちづくり官民協議会

検討 実施

○シャープやソフトバンク、市内企業・大学と連携し、行政課題の解決や地域経済の活性化につながる先端技術の活用を検討・実施



先端技術によるまちづくり官民協議会 設立総会



先端技術によるまちづくり官民協議会 規約

(名称)

第1条 本協議会は、先端技術によるまちづくり官民協議会（以下「協議会」という。）と称する。

(目的)

第2条 協議会は、産学官の連携のもと、I o TやA Iなど先端技術を活用した新たなまちづくりや地域活性化のための取組を検討する組織として活動することを目的とする。

(事業)

第3条 協議会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- (1) スマートシティの実現に向けた実証事業の検討に関する事
- (2) 先端技術を活用した地域活性化に向けた取組に関する事
- (3) 実証事業参加者の募集に関する事
- (4) 円滑に実証事業が実施できる環境の整備に関する事
- (5) 実証事業のP Rに関する事
- (6) 実証事業を実装へ進めるための検討に関する事
- (7) I o TやA Iなどの先端技術に関する戦略に関する事
- (8) 先端技術の知識等に係る人材育成に関する事
- (9) その他協議会の目的を達成するために必要な事業に関する事

(構成員)

第4条 協議会は、次の正会員及び特別会員（以下「会員等」という。）をもって構成する。

- (1) 正会員 別紙に掲げる者
- (2) 特別会員 本会の目的及び事業に賛同する企業、団体、地方公共団体等

2 正会員は、自己の職員のうち1名を委員に指名する。

(会長、副会長)

第5条 協議会に会長1人、副会長2人を置く。

- 2 会長、副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 前項の規定により会長の職務を代理する副会長の順序は別に定める。

(運営委員会)

第6条 第3条に定める事業を円滑に運営するため、運営委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

- 2 委員会は、委員をもって構成する。
- 3 委員会は、会長が招集し、その議長となる。
- 4 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 5 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 6 会長は、必要があると認めたときは、委員の書面表決をもって委員会に代えることができる。
- 7 委員会は、必要に応じ、委員以外の者の出席を求めて、説明又は意見を聞くことができる。

(部会)

第7条 協議会に、専門事項を調査・検討・実証事業をするための部会を置くことができる。

- 2 部会は、正会員又は特別会員で構成する。
- 3 部会長は会長が指名し、特別会員は部会長が承認したものからなる。
- 4 部会は、部会長が招集し、会議を主宰する。
- 5 部会長は、必要に応じて部会に部会員以外の者の出席を求めることができる。
- 6 部会は第1項に定める調査・検討・実証実験について運営委員会に報告するものとする。
- 7 部会長に事故あるときは、予め部会長が指名する者がその職務を代理する。

(事務局)

第8条 協議会の事務局は、福山市総務局総務部情報政策課に置き、協議会運営に係る庶務を担当する。

(秘密保持)

第9条 会員等は、協議会において知り得た活動内容及び他の会員等に関する一切の事項を、無断で第三者に開示又は漏えい等してはならない。

(その他)

第10条 この規約に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附則

この規約は協議会設立の日から施行する。

正会員一覧

No.	構成員名
1	シャープ株式会社
2	ソフトバンク株式会社
3	広島県東部機械金属工業協同組合（株式会社シギヤ精機製作所）
4	福山市立大学
5	福山市
6	福山大学
7	株式会社メディアテックー心

※50 音順に記載。

特集Ⅰ



ワクワクする未来に向けて実験中

まるごと実験都市 ふくやま

そのアイデア、
福山で実験暮らしが
より豊かに!まちがますます
発展しよう!

「まるごと実験都市ふくやま」と題して、地域課題を解決し生活を豊かに変えていく、新しい技術やサービスを生み出すための実証実験を積極的に推進しています。今回はこれまで行われてきた実証実験を紹介します。本市で生まれた実証実験の成果が世の中を変えていく、そんな未来の姿にワクワクしませんか。

企業政策課 ☎928-1292

3月1日・2日実施

県内初!

自動車の自動走行 実証実験

高齢者の移動手段確保に向け、今年3月に県内初となる自動走行の実証実験を日吉台学区内の公道で行いました。

日吉台学区は、地域のボランティアによる運転で買い物など高齢者の外出を支援している地域です。当日は住民をはじめ、企業や大学などから100人を超える人が乗車しました。住宅街に設定した走行ルートをレーダーなどで確認しながら走る未来の技術に、期待が高まっています。



参加者の声

- ・坂道が多い地域で移動手段がないので、実用化されると助かります
- ・思ったより運転がスムーズで乗り心地が良かったです



湖の周囲の立地映像がスクリーンに。来場者は福山市上宮を案内しているような感覚を体験しました。

11月3日実施

国内初!

5Gドローンを用いたバーチャル飛行体験

本市とKDDIは地域活性化を目的に、次世代移動通信システム「5G⁺」などのICT技術を活用した協定を締結。11月3日に開催したイベント内で、ドローンからの4K⁺映像を5Gで伝送する実証実験を実施しました。上空にドローンを飛ばし、4K高精細カメラで撮影した福山城周辺の空撮映像を、会場特設ドームテント内の半球状スクリーンにリアルタイムで伝送し、来場者に体験してもらいました。

参加者の声

- ・今まで見たことがないような景色が見られて良かったです
- ・最新の技術を体験できてワクワクしました

※1 5Gとは第5世代移動通信システムのこと。2020年の東京オリンピック・パラリンピックをめぐりに規格化が進行している次世代無線通信システムのこと
※2 4Kとはフルハイビジョンより4倍の画素数で、さら細かい映像のこと

全国5地域の
1つに選定

11月16日～29日実施

グリーンスローモビリティの実証調査

国土交通省が公募し全国5地域のひとつとして、鞆町・走島町での実証調査が選ばれました。車両が小さく環境に優しい電気自動車「グリーンスローモビリティ」を活用。町内の狭い道や急な坂道も楽に移動できます。窓がない開放的な車内では、海風を感じながら観光も楽しめます。この実証調査を通じて、高齢者の移動手段の確保や観光客の散策支援など交通課題の解決につなげます。

参加者の声

- ・歩いて行くのは大変な場所にも、これに乗れば簡単に行くことができるのとても便利
- ・鞆町の景色をゆっくり見ることができて、また利用したいと思いました



これまでに
さまざまな
実証実験が
行われています

- ICTを活用したIoTおもてなしクラウド事業(広島実証)
- 多言語音声翻訳システムの実証実験
- 通学路における地理的条件を考慮した速度抑制実証実験
- マイナンバーカード(個人番号カード)のICチップを活用した「ばらのまち福山ポイント」実証実験
- ベルト装着型IoTデバイスを用いた実証実験(ストレス度などの計測) など



チャレンジ募集!

実証実験
まると
サポート事業

まずは
相談
してください



独自の技術やアイデアを活用した実証実験を募集中。新たな社会の姿を創るチャレンジを、全力で“まると”サポートします。

対象事業

先端技術などを活用し、地域課題の解決や市民生活の質の向上などをめざす事業

支援決定の基準

地域課題解決への発展性、市内の人材活用などから総合的に判断

応募資格

民間企業や研究機関、公的機関など

サポート内容

- ・実証実験のPR
- ・実験場所の提供
- ・官公庁手続きの支援
- ・規制緩和の検討

詳しくは
こちら➡

